

神奈川県労働局長が年末建設工事パトロールを実施いたしました。

令和4年12月14日(水)午後 神奈川県労働局安全課・健康課・横浜北労働基準監督署



令和4年の神奈川県内における建設業労働災害の発生状況は、死亡災害が昨年の21人から大幅に減少し8名となりましたが、第13次労働災害防止推進計画(13次防)の最終目標かつ史上最少であった平成29年の5人を下回ることはいけません。死傷災害についてみますと13次防の最終目標が657人以下であるところ、11月末現在で678人となり、昨年の671人を上回ってしまいました。神奈川県労働局では13次防期間中、建設業を労働災害防止重点業種と位置づけ、年を通じて監督指導を実施してまいりましたが、今般、その一環として神奈川県労働局長(局長 西村斗利)が陣頭に立って建設工事現場の労働災害防止を主眼としたパトロールを実施いたしました。パトロールをさせていただいたのは鹿島建設が施工している『(仮称)Kアリーナプロジェクト』建設工事現場で、完成すれば国内最大級となる観客収容数2万人のライブコンサート専用アリーナにホテルとオフィス棟が付属する複合施設となります。当日は建設業労働災害防止協会神奈川支部の黒田支部長にお越しいただき、建災防と、所在地を管轄する横浜北労働基準監督署との合同パトロールとなりました。



上の2枚の写真のとおり、外観は完成に近い状態となっており、現在は、来年秋の「こけら落とし」にむけて、外構および内部設備設置等の工事が進められています。入場している作業員の人数は、アリーナ約500人、ホテル約300人、オフィス約200人とのことです。



パトロール中に、朝礼場にて約100人の職長を前に、労働災害防止に関する要請を行う局長と建災防黒田支部長。



外部作業について説明を受ける局長と黒田支部長。現場所長さんの指先にはホテル・オフィス棟の外部足場や移動式クレーンなどがあります。



作業床端の墜落防止と床鉄筋の養生を確認する局長、支部長、横浜北署長。



高所作業車に作業時の周囲立ち入り禁止を知らせるためのカラーコーンとコーンバーを積載している好事例。

このように広大なアリーナの内部で各種作業が行われている場合には、浮遊粉じんが発生したり溶剤臭がしたりすることが多いのですが、この工事では、屋内の換気や清掃に十分な配慮をしておられ、浮遊粉じんの存在は感じられず溶剤臭もありませんでした。また作業通路はつまずきや滑り等が無いように安全保持されていました。屋内における高所作業車使用時にもフルハーネス型墜落制止用器具(安全帯)をしっかり使用していました。パトロール巡視終了後、横浜北署長は「安全に作業を進められていることを確認いたしました。今後も安全に作業を進めていただきたい。」黒田支部長は「現場内の整理整頓が行き届いていることから安全確保の基本が守られていると感じました。」、局長は「安全確保は日々の積み重ねから。職長、作業員のみならずと防災意識を共有し、高度な災害防止の取り組みを継続していただきたい。」と講評いたしました。